

# 高鍋町立高鍋西中学校の学力向上への取組

## 1 学校の概要

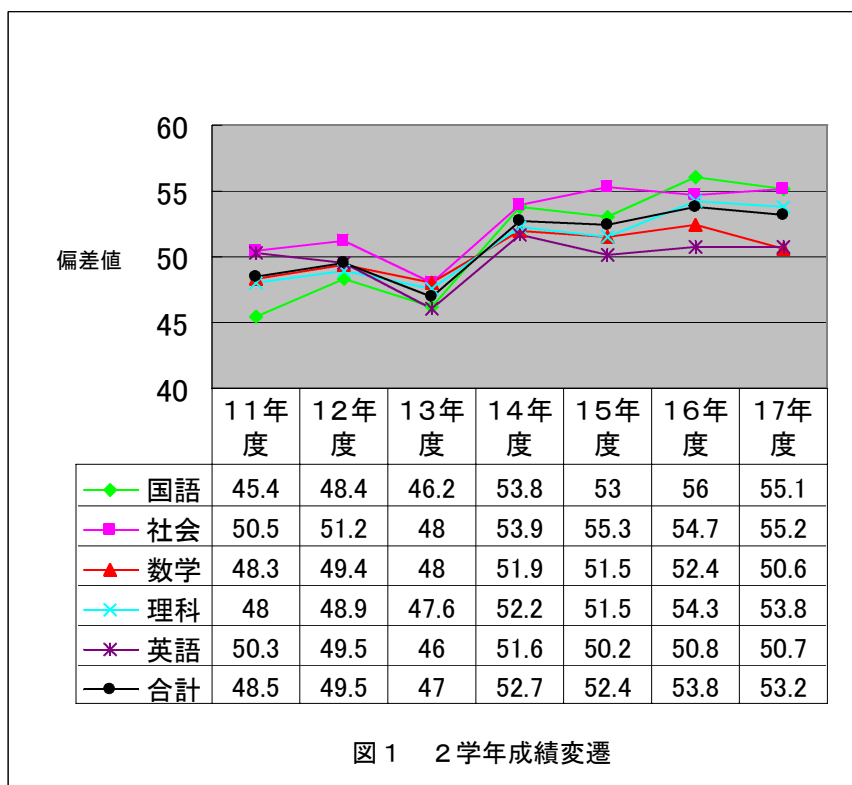
高鍋は秋月藩主の城下町として発達し、種茂公が明倫堂を開設して師弟の教育に努めたため、石井十次をはじめ多数の先哲を輩出している。本校は高鍋町の西部に位置し、校区は町内の小丸川北部と町の西部からなる。全校生徒は315名で各学年3学級、特殊学級1学級の計10学級である。

## 2 生徒の実態

本校の生徒は、学校行事において生徒会を中心に積極的な取組が見られる。生徒自らが教師の適切な指導の下、企画、運営を行い活発かつ感動的な行事を作り上げている。

生徒指導面においても大きな問題がなく、落ち着いた学校生活を送っている。また、学習や部活動において意欲的な取組がみられる。

図1は平成11年度以降の標準学力検査における2年生の成績の変遷である。13年度を境に各教科において伸びがみられる。特に14年度において数学の伸びが著しい。これは高鍋西小学校の算数指導の成果が表れていると考えられる。本校においても学力をさらに高めるために以下のような取組を行っている。



## 3 学力向上に向けた経営方針

本校では明るく元気にさわやかにをモットーに、教育目標を「親愛、英知、鍛練」とし、生徒、保護者、地域に本校の教育方針を明確に示している。

### (1) 教育理念

本校の教育理念は、高鍋町に伝わる明倫の教えや石井十次の友愛の精神をもとにして、教育指導に当たる。

## (2) めざす生徒像

- 自他のよさを認めリーダーシップ・メンバーシップを発揮する生徒 [親愛]
- 学んだ知識を生きる力・知恵として正しく実践できる生徒 [英知]
- 自ら進んで体や心を鍛え磨く生徒 [鍛練]

## (3) 積極的な生徒指導を基盤にした学力向上

- すべての教育活動を通して、基本的な生活習慣の確立や規範意識の高揚を図ることによって、自己指導能力を育成する。
- 生徒一人一人の自己存在感を高めるとともに、お互いのよさを認め合う学級作りに努める。
- 緻密に生徒会組織を確立することによって、生徒自らの活動する場を増やし、責任感や成就感を味わわせる。
- 授業前後のあいさつ、授業中の姿勢、発表の仕方、学習の心得、グループでの話し合いの仕方、課題の提出等、全教職員が同一の学習指導を行う。

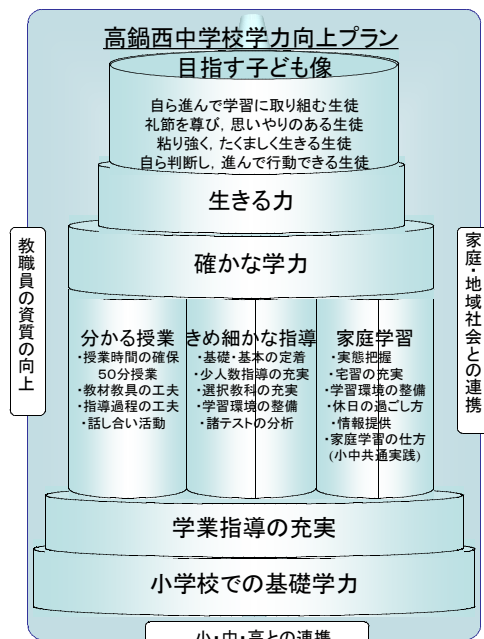


図2 学力向上プラン構想図

## 4 教育課程内の取組

### (1) リーダーシップ、メンバーシップの育成

#### ① 学級集団づくりについて

本校は、すべての学級が専門委員会ごとに生活班を作り、仕事を割り振って活動している。仕事の内容は委員会の仕事と日直の仕事に分けられる。委員会の仕事は全校専門委員会の仕事であり、班の仕事は、本来日直が行う学級の中での仕事である。

班の仕事内容は、生徒全員が毎日何らかの仕事があるように割り振りを行っている。また、班の編制、全員日直制の仕事の進め方、点検の手順が決まっている。図3は点検に用いているネームプレートである。全学級で統一したものを作って意識を高めている。



図3 班掲示の点検の掲示

#### ② 生徒会による学校づくりについて

生徒会執行部、議長団、全校専門委員会、学年委員会、学級役員、班長、班員という流れで、それぞれの担う役割が明確になっている。また、行事においては学年委員会と同等の立場で実行委員会が発足し企画、運営などを行っている。

### (2) 選択教科の充実

選択教科は1年生30時間、2年生85時間、3年生165時間とし、総合的な学習を70時間とし

た。特殊学級においても選択教科を履修している。生徒のニーズにこたえるため、1つの教科でできる限り多くのコースを開設している。このため、1つのコースにおける生徒数が少なく、きめ細かな対応ができるようになってきている。1年生では5教科10コース、2年生では9教科26コース、3年生では9教科36コースとなっている。同一教科でも基礎・基本を中心に復習するコース、応用的な演習として発展的な課題に取り組むコースなど工夫を行っている。

### (3) 少人数指導

数学科と英語科において少人数指導を行っている。

#### ① 数学科の取組

1年生では、1学期は中学校生活に慣れていないことも考慮し、1学級を2分割し等質集団で指導を行った。2学期以降は個人差が明確になってきたため、習熟度別の集団を取り入れた。2年生では基礎コース、発展コースを開設し、1学級を2分割した。基礎コースにおいては、基礎を徹底して指導できるようにするため定員を10名程度で行っている。3年生では2学級を3コースに分けた。基礎コースとして1コースを設定し定員を10名程度とした。

コースの選択については、保護者の理解を深めるために説明資料を配付し、生徒と保護者が話し合った上で決めている。少人数の指導を行うことで、基礎コースでは興味をもって授業に取り組む姿や積極的に質問を行う姿が多くみられるようになった。また、発展コースにおいても生徒同士が教え合う姿がみられるようになった。

#### ② 英語科の取組

2、3年生において習熟度別学習を行っている。各学期のはじめに、保護者を対象に資料を配付し趣旨説明を行い、希望調査を実施している。同時に「コース編成テスト」をもとに、英語科担当でコース編成を行っている。2年生では1学級を2分割し基礎コース、発展コースを設定した。3年生では2学級を3分割し、基礎コース、標準コース、発展コースを設定した。

基礎コースでは、生徒がのびのびと学習しており、質問をしやすい雰囲気ができている。発展コースにおいては挙手発表が増え、活発な言語活動が展開されている。

### (4) 特別支援教育

スクールアシスタントやヤングアシスタントを活用することで、特別支援が必要な生徒に対して、主にマンツーマンで指導を行っている。特別支援コーディネーターを中心に、養護教諭、学級担任、スクールアシスタント、ヤングアシスタントと連携を図り、時間割の作成、授業内容の検討などを行っている。生徒一人一人に対して、その生徒にあった教材を準備し、時間割の中で個別指導が効果的と思われる教科において、別室にて指導している。

個別指導を行うことで、一斉授業ではなかなか活動できなかった生徒も、一人一人に必要な学力を身に付けることができるようになってきた。

### (5) レベルアップコンテスト

基礎学力の定着を図る手だてとして、各教科における基礎的内容の確認として全学年を対象に小テストを行い、定着度を確認する目的でレベルアップコンテストを実施した。実施時間は

40分で国語，社会，数学，理科，英語の5教科で基礎・基本となるものを中心に内容をしばって作問し，定着度を確認した。また，80点以上の生徒を表彰することで，生徒の意欲を高めることもねらいとした。本年度は2学期に2回実施している。



図4 レベルアップコンテストの様子

#### (6) 生徒による授業評価

昨年度より1学期末にすべての教科において生徒による授業評価を実施した。授業評価のねらいは，教科担任が結果を集計分析し，自分の担当する教科の問題点を明確にし，2学期以降の授業に生かすことである。

### 5 教育課程外の取組

#### (1) 夏季休業中の基礎学習会

夏季休業中の家庭訪問期間にあわせて，希望する生徒を対象に国語，数学，英語の3教科において基礎学習会を実施した。プリント等の準備は教科担任が行うが，実際の指導においては教科の枠を越えて学年の職員で対応した。

生徒のアンケートからは，「学力アップにつながった」や「わからない問題が解けるようになった」という回答があり，成果がみられた。

### 6 保護者・家庭，地域との連携

本校はレベルアップ高鍋の拠点校として，高鍋西小学校との連携を図っている。年間3回小・中合同研修会を行い，お互いの授業を参観し研究協議や情報交換を行っている。さらに，共同研究できる部分において連携して研究を行っている。

保護者・家庭との連携では奉仕作業や地区懇談会，成人教育の活動などを通して，学校の方針を家庭や地域に発信している。

### 7 成果と課題

リーダーシップ・メンバーシップの育成については，平成14年度から全校の取組として定着している。一人一人の生徒が自分の仕事に責任をもって取り組むことで，学級に落ち着きと不正を許さないという気持ちが高まってきた。学力が向上した大きな要因であると考えられる。

さらに，授業におけるきめ細かな指導や，当たり前なことを当たり前でできることを目指した指導で，一人一人の力が伸びてきたと考えられる。

課題として，意識調査の結果，読書の習慣が身につけていないことや，学習した内容を生活に生かそうとする態度が不足していることが明らかになった。読書については2学期以降，朝の学習において読書の日をもうけるなど改善を行っている。

学習に対する意欲を高める工夫として，学んだ知識を生きる力として正しく実践できることを目指して，授業における生徒の活動の工夫や，家庭学習を通じた家庭との連携について，継続して研究を続けていく必要がある。